1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600670		
法人名	有限会社 あやめの里		
事業所名	グループホーム あやめの里A棟		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町鯛ノ浦郷397-4		
自己評価作成日	令和2年9月23日	評価結果市町村受理日	令和3年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の職員としては毎年自分で目標を設定してそれに向けて日々努力しています。又、自己評価して目標の達成状況、その時に応じた目標の再設定等現状の把握に努めています。ユニットとしては身体拘束適正化についての目標を毎月設定してユニット会議にて気づきや反省点を話し合い、目標を継続するか新しく設定するか決めています。又、運営推進会議や管理者・主任会議時に取り組みの内容、成果を報告しています。事業所としては色々な利用者様、様々な状況にも対応できる職員の育成、確保に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念“たのしく、個性的に、ゆっくり、自然に”という一文の中に、事業所での暮らしが、利用者の在宅時の生活に近く、居心地よく過ごしてもらいたいという思いを込めている。利用者が普通の生活ができるよう安心安全の生活環境を整備し、職員の利用者の人格を尊重した言葉掛けやさりげなく見守る事業所のケアは特筆すべきであり、職員の質の高さが窺える。例えば、利用者一人ひとりのフェイスシートは、生活歴がわかりやすい工夫がある他、トイレや入浴支援では、人としての営みと羞恥心への配慮を大切に取り組んでいる。今年度、新型コロナ感染予防対策について、事業所内の衛生管理徹底と共に、病院のガイドラインを基に同等の対応できる体制を整備している。安全対策を取りながら、家族との交流や外出ドライブなど、利用者最優先の姿勢が窺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を書いた額を事務所、各棟の入り口に飾り職員の目に入るようにして意識付けをしています。各職員は理念に沿えるように意識しながら日々の支援にあたっています。	理念を事業所の各所に掲示することで、職員は理念を意識してケアに取り組んでいる。理念を具現化するに当たり、職員は利用者一人ひとりの生活ペースを優先し、寄り添う支援を目指している。また、利用者の自宅に近い環境となるよう、事業所はチームケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として回覧板を回したり、ゴミステーションの掃除当番を行っています。今年度は新型コロナ禍の影響で運動会等の行事が中止になり、交流は出来ていません。	地域の一員として、回覧板や清掃など町内会活動に参加している。例年は、地域の福祉運動会参加や中学生の職場体験など、地域と日常的な交流に積極的に活動している。今年度は、新型コロナ感染予防の観点から、直接的な交流は減っているものの、互いの状況を把握している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献の場は少ないが、機会があれば地域の方々に情報発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容を各職員で共有してサービスの向上につなげています。新型コロナ禍の影響で5月以降は会議を実施できずに書面での報告となっています。	例年は規定メンバー参加の下、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の状況報告と共に、意見交換を行っており、わかりやすく議事録をまとめ、サービス向上に繋げている。新型コロナ禍においては代表と職員で会議を行い、議事録を推進会議メンバーへ書面報告し、評決を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃より連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な連携は施設長が協力関係を築き、各会議などに参加しています。	行政担当者とは、普段から連絡を密に取っている。今年度は、運営推進会議議事録の書式を新上五島町様式に統一するにあたり意見を得ている。また、施設長が認知症疾患連絡協議会の委員であり、各会議に参加している他、職員は新型コロナ感染予防の研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員が身体拘束適正化のための指針を理解して、各棟で毎月目標を立てて取り組んでいます。	身体拘束適正化のための指針があり、運営推進会議にて報告している。全体目標「優しい言葉遣いを心掛けよう」を掲げ、ユニット毎に研修を行い、事例を基にNG対応の検討や小テストを実施しながら、身体拘束をしないケアに努めている。ただし、ユニットで研修内容に差が生じている。	身体拘束をしないケアに関する研修について、ユニット毎で開催する良さを継続しつつ、研修内容に差異が生じないよう取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	各棟での取り組みを運営推進会議や管理者・主任会議時に報告しています。また、各職員が指摘できるような職場環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている入居者がおられ、後見人の方と話す機会があるが、一部の職員のみで、他の職員にまで情報は共有できていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については施設長が行っているので説明等についても施設長にお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があった場合はその都度施設長に報告しています。普段の会話等からも変化等に気付けるよう注意していて、情報を共有できるようにしています。	利用契約書を交わす際に苦情相談窓口を説明している。新型コロナ禍で面会謝絶とされていたが、家族の希望もあり、ガラス越しでの面会だけでなく、今秋から長崎県内の在住に限り、事務所内にて10分程度の面会を実現している。面会できない不安を払拭し、利用者・家族の希望を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員から出た意見は施設長に報告して、反映してもらえるようにしています。その結果を各職員に報告しています。	年2回施設長は職員と面談しており、職員自ら目標を立て、進捗状況を話し合う場となっている。職員の意見を基にして、行事毎の担当が必要な物の購入伺いを提出し購入する仕組みがある。2ユニットはそれぞれに個性があり、書式の変更を検討し、試作するなど積極的な取組みが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年個人目標をそれぞれで設定して向上心を持って業務に当たれるよう努めています。また、年2回目標の進行状況や自己評価をしてもらい、現状について考えてもらう様にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の資格取得等は職場の理解があり協力的です。研修の機会がある時も各職員に回覧して参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先での同業者との交流はあるが、ネットワークづくりや勉強会等を行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活状況や要望を把握できるように努め、新しい環境になじんで安心して生活して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望を把握できるように努めています。また、ご家族にも関わり合いが持てるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から得た情報を各職員で共有して優先順位を見極め最善のサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活を第一に考えながらお互い助け合えるような関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ともご本人の気持ちや要望を共有して、ご家族も一緒に支援していけるような関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室にお連れしたり、カトリックの方への神父様の面会はあるが、全員の支援は出来ていない。	ドライブや散歩は以前と変わりなく行っている。新型コロナウイルス禍では、馴染みの人が気軽に訪れる環境ではなくなっており、これまで面会の多かった利用者のダメージは見えてとれる状況である。そのため電話を掛けるなど工夫しているものの、会って話したいという要望が強い。そこで、10分と時間を決めて面会を再開しているところである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルは職員がさりげなく間に入りその方が孤立してしまわないように配慮しています。また、それぞれの話をしっかりと聞いて、気付きや変化を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談や支援は施設長にお願いしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の立場になって考え、普段の関わり合いの中から気づけるよう各職員が努めています。意思疎通が困難な方はその動きや表情等から気付けるよう努めています。	フェイスシートは毎年4月に更新し作成している。午前中のレクリエーション参加は自由であり、本人の意向に沿って支援している。難聴の場合は、筆談や一覧表を見てうなづきで意思表示できるよう工夫している。家族に尋ねることもある。本人の希望は業務日誌に記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞いたり、今まで利用していた施設や病院の職員からの情報や書類を基にこれまでの経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動や表情、バイタルの小さな変化でも気づけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員にモニタリングを振り分けて、その期間ごとに実施しています。各職員の気づきや意見を取り入れて計画を作成しています。	利用開始時、暫定プランを作成し1ヶ月を目安に見直している。長期・短期の支援目標は、本人や家族の要望を反映している。特に家族が介護計画への参加を促すためにも、家族の意向の汲み方を工夫している。介護日誌のチェック表にて、支援の実施状況が確認する流れはあるが、評価する仕組みがこれからである。	日々の実践状況を確実に記録することが、介護計画の見直し時に活かされるデータとなるため、定期的にチェックする仕組みづくりが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に細かな気づきや変化も記入するようにして各職員が情報を共有できるようにしています。裏面には介護計画の短期目標と援助内容を印刷して実践できているかチェックできるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所サービスや短期入所サービスなど状況に合わせたサービスの提供を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉運動会や敬老会などに参加して楽しみを見出さるよう努めているが、今年は新型コロナ禍の影響で行事が中止になっているので支援に繋がっていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医の受診を継続して、受診には職員が同行して普段の様子を伝えています。	かかりつけ医の継続受診は、本人・家族の意向を優先している。通院は職員が行い、状況によって病院で家族と待ち合わせることもある。今年度は新型コロナ感染予防の観点から、かかりつけ医の指導の下、往診対応となっている。夜間緊急時の対応を明確にし、適切な医療を受けられる環境を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師が来所するので、気づきや変化を報告、相談して適切な処置や受診を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には看護サマリーにて情報交換しています。また、カンファレンスにて入院中や退院後の治療方針についてご家族と一緒に医師より説明をしてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に受診に同席して頂き、医師より終末期の説明をして頂きご家族のご意向に沿った事前協議書を交わしています。	重度化・看取り支援に関する指針があり、利用開始時に説明している。利用者の状況に応じ、医師による家族への説明と共に、再度支援内容を確認している。これまで看取りの事例がある。職員はグリーンケア等の研修を受講すると共に安心と納得を得られる看取りに向けて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	5年に1度の消防署での救命講習を受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回火災避難訓練を実施してその都度利用者の避難方法等について学び、話し合っています。地域との協力体制については消防のみです。自然災害については台風の時にその都度対策を行っています。	年2回火災避難訓練を実施している。避難誘導は、利用者も参加し、避難経路の確認を行っている。通年は周辺住民へ声掛け訓練を行っているが、新型コロナ感染予防の観点から、今年度は自粛している。自然災害を想定し、職員体制を確認している。持ち出し用の利用者一覧表を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心やプライバシーに配慮するために、排泄のお誘いや居室に入る時の言葉かけ等気をつけて対応しています。	職員は、利用者が居室内でポータブルトイレを使用する際にはドアを閉め、膝にタオルを掛ける他、入浴時の脱衣室ではバスタオルを掛けて露出を避けている。方言や大きな声での声掛けは、管理者が都度注意しており、理念・基本方針に沿って利用者の尊厳を重視した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞きながら、より良い支援、環境づくりができるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や順番、食事の時間等決めてしまっている部分があるが、本人の希望に沿った支援ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室にお連れしたり、理、美容師に来所してもらいカットしてもらっています。服装は職員やご家族が季節に合わせて衣替えをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの把握はしているが、決まったメニューの提供になっています。準備や片付けは転倒等のリスクを考慮してテーブル拭きを手伝ってもらっています。	各ユニットには調理専門の職員がおり、以前栄養士から提供された献立表を基本に毎食手作りしている。誕生日には本人のリクエストに応え、ちらし寿司などを提供している。職員も一緒に同じ食事を食べ、世間話などで和やかな時間となっている。サラダなど食事の準備を手伝う利用者もおり、食事が利用者の楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録して訪問看護時や受診時に確認してもらっています。食事の形態については一人一人の状態に合わせて普通食・おかゆ・ミキサー食・トロミ使用で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは職員が付き添って必要に応じて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人に合わせた排泄支援を行っているが、自立支援ではなく現状維持と言った状況です。	各ユニットで排泄チェック表を作成しており、職員は、時間を見ながら定期的に声掛けしトイレに誘導している。オムツ使用であっても、ポータブルトイレを利用している他、日中は自力でトイレに行く利用者もいる。職員は排泄の自立の重要性を理解し、退院後にオムツを外すタイミングを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用、座薬の使用で排便コントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっている状況です。早めにお誘いして本人のペースで準備等出来る様に工夫するよう努めています。	毎日、湯を張り1日に5人を目安に支援しており、利用者は2日に1回入浴している。入浴拒否時は無理強いせず、翌日に延ばすこともある。同性介助の希望に沿っている他、シャンプー・リンスは本人の好みのもを使用している。入浴剤を入れて気分転換を図り、利用者の昔話を聞き、楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後すぐの時はお待ちいただくが、なるべく本人のタイミングで就寝できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の説明や薬の説明書で各職員が理解に努めています。また、薬の変更がある時には各職員で情報共有できるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり作りや洗濯物たたみ等のお手伝いをしてもらったり、みんなでアクティビティ等を楽しんでもらっていますが、一人一人に合わせた支援は難しい状況です。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診以外での外出の機会は少ないです。	日頃から敷地内の散歩に出掛けている。また病院受診に合わせてドライブすることもある。桜の花見や祭り見物に出掛けていたが、新型コロナ禍で中止している。病院受診時に家族と会うこともあり、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されているのは1名だけです。その方もお金を使う機会はほとんどありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方が1名いらっしゃいます。他の方は荷物が届いたときのお礼の電話位でほとんどかける事はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるような空間づくりに努めています。また、行事ごとの写真を飾って楽しんでもらえるようにしています。	季節の飾付けや利用者の写真を掲示することで、気持ちや和むよう、工夫を凝らしている。リビングは利用者一人ひとりの居場所があり、おしゃべりを楽しんだり、手先の作業に集中できる空間となっている。空気清浄機等、換気や温度管理、職員による清掃で、清潔な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係を考慮してテーブルやいすの配置を工夫しているが場所は決まっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものやご家族の写真や誕生会の写真を飾ってリラックスして過ごせる空間づくりに努めています。	利用者が事業所での暮らしに馴染めるよう、持ち込みは自由である。家族の写真を飾ったり、収納家具や電化製品など配置している。ベッド周辺は、利用者が過ごしやすいよう整理整頓している。職員は、利用者の自宅に近い環境整備を行っている。職員による清掃と換気で居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで安全に歩行できるよう手すりも設置されています。居室内もその方に合わせて電動ベットやベット横に手すりを設置して安全に考慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600670		
法人名	有限会社 あやめの里		
事業所名	グループホーム あやめの里B棟		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町鯛ノ浦郷397-4		
自己評価作成日	令和 2年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、自分の家で暮らしているような安心感と共に毎日の生活において常に自立支援や意思決定を尊重した対応を心掛けている。また、今まで行っていた趣味や毎日の日課としていたことなどが継続していけるよう個人に合わせ支援している。現在、コロナ禍にある為、ご家族や外部とのコミュニケーションは不十分であるが、納涼祭や敬老会など、ホーム内で季節を感じて頂く事や皆様に楽しい時間を少しでも過ごして頂けるような支援も実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は全職員が理解し、理念に基づきご利用者へ支援を行っていただけるよう事業所の見やすい場所に提示し常に意識をもって支援をおこなっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナ禍の為、地域との繋がりが持てるような取り組みは行っていない。通常であれば地域の福祉運動会や運営推進会議を通し地域の交流があっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ禍の為、事業所としての力を生かした地域貢献はおこなわれていない。今後の思いとしては、地域住民も参加できる行事等を開催し、事業所に対して理解が深まる取り組みをおこないたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、現在2ヶ月に1回の運営推進会議は書面で実施されており、都度、グループホーム内での取り組みや情報の提供を実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新規ご利用に関しての状態確認など行う為、包括支援センター、地域連携室、社会福祉協議会等の職員と書面や電話連絡で情報交換などをおこなっている。また、運営推進会議時に情報の提供を実施している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議で事例検討や勉強会を実施し、拘束とは何かをしっかりと理解して、いかなる場合でも拘束はおこなわない事を前提に業務にあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で事例検討や勉強会を実施し、虐待とは何かをしっかりと理解して、いかなる場合でも虐待はおこなわない事を前提に業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	10月会議で権利擁護に関する勉強会を実施する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現在、契約に関しては施設長が実施しており、書面準備、ご家族の要望に対しての説明をしっかりと行い、ご理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時に家族または利用者から意見・要望がないか尋ね、プランに繁星をおこなっている。ご家族に関しては、現在、コロナ禍の為、電話での聞き取りが主となっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われる管理者主任会議、全体会議時に職員の意見や提案を聞き代表者や管理者と話す機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により、長期目標1年、短期目標半年で目標を設定し目標達成できるよう個人やチームで取り組みをおこなっている。また、資格取得の際の研修費負担など向上心を持って働けるよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例会議時に勉強会を実施。また、アセッサー資格取得者が職員を評価し、意識向上やスキルアップができるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、現時点では同業者との交流を直接行う事はないが、利用者等の情報共有を行う為、地域連携室、包括、他の事業所と電話連絡でネットワーク構築をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事に耳を傾け利用者の目線に合わせ話しを聞き本人の思いを聞きながら信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とサービス内容を確認、相談しながら決定し関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援または、現在の状況を把握しながら職員と家族、居宅ケアマネが話し合い、必要なサービスを提供する事で信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人とコミュニケーションを取りながら相手の思いを理解し共に関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナ禍による面会制限が続いており、直接家族の意見や要望をお聞きする事はできないが、都度、電話連絡で状態、近況報告を実施し家族と共に本人を支えていく関係作りをおこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍による面会制限が続いているが、顔を拝見に来られた方がいる際は窓越しにお会いして頂いている。また、電話連絡がホームに来た際は、都度本人へお取次ぎし、自身の携帯電話をお持ちの利用者にはご自由に電話して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を把握し、レクリエーション等を通じ利用者同士がコミュニケーションや交流の場を作り、関係が円滑になるように支援している。利用者間でのトラブルがあった際は、都度仲裁をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談、支援に関しては、現在、事例があていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを密に図り、本人からの聞き取りによって、日常生活上の希望、意向を出来るだけ取り入れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アナムネでの生活歴確認や本人やご家族、地域の方から話しを聞いたりしてサービス利用の経過等の把握をおこない職員間で周知をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録による個人の一日の過ごし方把握やバイタルチェックで心身状態の把握に努めている。また、普段と状態等の変化が見られた際は記録の記入と職員間で情報周知をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	令和2年度より、利用者の担当者を固定で決定し、ケアプラン作成時に立案、要望等を聞き入れプラン作成をおこなうようにしている。本人、家族へは都度要望等伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事や状態等に変化が見られた際は個人記録や業務日誌に記入し、口頭でも情報を共有している。サービス実施のチェックに関しては個人記録の裏面にレ点チェック方式でおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空室状況によりショート希望があれば受け入れ対応し、支援をおこなっている。また、利用者や家族から提案や要望があれば対応に向けて取り組む姿勢がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、外部との交流や各ボランティア等受入れは現在、行えていない。移動図書館の利用はあっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が以前から行かれている病院、希望する病院へ受診しそれぞれが納得いく形で診療を受けられている。受診の際は情報の提供をおこないホームでの様子を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護が来設。利用者や職員より現状の報告や相談をおこない、受診や日常生活での助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供書を渡し、家族や医療機関、ケアマネージャーと話しを持ち、退院時は看護サマリーを基に対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な方には受診時にご家族同席していただき、医師からの説明、家族の意向を踏まえ、今後の対応を検討。事前協議書を作成し、署名捺印頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	5年毎に消防署での救命講習を受講してもらっている。また、夜勤帯等、自身で状態の変化等に対応不安がある際は、管理者および施設長への連絡を義務付け判断を仰ぎ対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	令和2年度は7/14に建物火災夜間想定で実施した。消防署はコロナ禍の為、立ち合いはなかった。内容として消火訓練、通報訓練、避難訓練を実施した。自然災害に関してはマニュアル作成があるが今年度現時点で実施はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄時などプライバシーに配慮し支援している。一人ひとりの人格を尊重する為、言葉かけの際には人格を損ねない言葉かけを行う努力をしているが、方言や難聴者への大きな声での言葉かけに威圧的な印象を受ける時はある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、傾聴、受容、共感をおこない自己決定しやすい支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方、一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、本人の意思を尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で決定できる方に関しては自身で衣類選択をおこなって頂いている。但し、意思決定が困難な方に関しては職員が衣類選択をおこなっている。また、散髪に関してはコロナ禍であるため、職員が時間の空いた際カット。家族にも承諾済み。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を職員が把握し、代替食や形態を変え提供。入居者の能力を把握し、食事の盛り付けやテーブル拭き、下膳、食器拭きなどおこなって頂いている。入居者もやりがいなど持っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し、食事や水分摂取量の低下などあった際は、訪看時や受診時に相談をおこない、助言を頂き対応や管理をおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方に関しては見守りや声かけで対応し、介助が必要な方に関しては一部介助、洗い直し等おこなっている。また、定期的に協力歯科の医師が概ね2ヶ月に1回の頻度で口腔内の環境をチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自立の方に関しては自身のタイミングで、一部介助の方に関しては訴え時や定時での声かけや誘導実施。オムツ使用の方についても排便訴え時や定時でもポータブルトイレに使用し排泄して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の確認。体操や歩行訓練等で腸の蠕動運動促進や水分増量、下剤の調整実施し便秘症状の緩和に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は概ね週に2回程度実施。状態に合わせてシャワーチェアを使用している。また、拒否があれば時間を置く、日にちを変えるなど対応し、本人様の入浴の希望がある場合は都度調整実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間と安心して休息や安眠できるように利用者の状態や希望に合わせて眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や、薬局から頂く内服薬の説明書に目を通し内容や目的等の把握をおこなっている。職員管理下、服薬が確実にできるよう支援をおこない、体調や症状を観察し、必要に応じ医師や看護師に相談おこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティー、洗濯干し、洗濯たたみ、炊事手伝い等できる事をおこなって頂き、毎日の生活に楽しみや役割が持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は、ドライブなど行っていた。自身の出身地区へのふるさとドライブ(地域の方の交流含む)も企画していたが現時点では実施されていない。現在、天気の良い日に職員付き添いで屋外散歩を短時間であるが実施する事はあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で金銭管理をおこなっている方が1名おり、自身で必要な物を職員に頼み購入する事がある。入居者の多くは自身で金銭管理が困難な為、施設管理となっているのが現状で、必要な物がある際に職員が購入をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で携帯電話を所持されている方がおり、ご自由に電話されている。他の方に関しては本人の依頼やご家族、知人から連絡があった際に取り次いでいる。また、ご家族から贈り物や手紙が来られる方もおり読み聞かせ等おこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔保持に努めている。また、季節感を感じられるように、随時、貼り絵や装飾などを時期に応じて変化させている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、入居者同士の関係性を大切にしながら、過ごしやすい居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅等で使用していたなじみある物やご家族の写真など飾り、心地よく過ごせる居室の空間作りをおこなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮する事はもちろん、入居者にできる事を維持してもらえるように、共同空間や居室の環境整備を実施し、自立と安全のバランスに気を配っている。		